

Title	第53回物性若手夏の学校(2008年度)
Author(s)	
Citation	物性研究 (2009), 91(5): 425-425
Issue Date	2009-02-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/142763">http://hdl.handle.net/2433/142763</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

---

## 講義ノート

---

YITP-W-08-06

### 第 53 回物性若手夏の学校 (2008 年度)

私たちが企画した夏の学校は、2008 年 8 月 7 日～11 日の 5 日間の日程で、栃木県那須郡は那須オオシマフォーラムにて行われました。天気にも恵まれ、那須高原という土地柄夏の暑さもさほどなく、快適な交流の場であったと記憶しています。

この講義ノートは第 53 回物性若手夏の学校で講義をされた、最先端の研究を担う 11 名の講師の方に執筆を依頼し、準備局員が編纂したものです。執筆してくださった岡田真人先生、小形正男先生、多々良源先生、田中博先生、守友浩先生、有馬孝尚先生、上羽牧夫先生、小林晃人先生、竹谷純一先生、松山明彦先生、湯川諭先生にはお忙しい日々を割いてこのような大変充実した講義資料作成にご協力いただき、感謝の限りです。

講義内容は、若手有志からなる世話人が自身の興味のもとで依頼をしています。そのため、現在の若手研究者の興味の縮図といってもよい内容ではないでしょうか。その観点からも、この講義ノートは長年の物性研究の歴史上、有意義な資料ともなるでしょう。

また内容も大学院初年度レベルを想定しており、わかりやすいものばかりです。私たち第 53 回準備局員は「ターニングポイント」というキーワードを掲げ運営を行いました。その観点から、今後この講義ノートをみてさらに下の世代が物性分野に興味を持ち、この分野を盛り上げていく原動力を担ってくれたらと期待せずにはられません。

現在、この夏の学校の運営は全国の有志の手で行われております。運営面に携わったこの経験、活動をともにしたすべての人とのつながりは非常に貴重なものでした。また、現在も次回物性若手夏の学校の準備が、新たなスタッフの手で着々と進められております。更なる発展を続けていくでしょうこの夏の学校を今後ともよろしく願いいたします。

最後に、夏の学校にご賛同いただき、多大なご支援をくださいました京都大学基礎物理学研究所、材料科学技術振興財団、東京大学物性研究所、東北大学原子分子材料科学高等研究機構には深く感謝いたします。また、協賛いただきました多数の企業、寄付およびご助言くださいました夏の学校 OB の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。

第 53 回物性若手夏の学校準備局  
代表 安藤康伸